

ふりがな

おざき まさたか

氏名

尾崎 正峰

1. 学歴

- 1983年3月 一橋大学社会学部卒業
1983年4月 一橋大学大学院社会学研究科修士課程入学
1985年3月 同課程修了
1985年4月 一橋大学大学院社会学研究科博士課程進学
1989年3月 同課程単位修得満期退学

2. 職歴・研究歴

- 1989年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（1991年3月まで）
1995年4月 一橋大学経済学部助教授
1996年4月 一橋大学社会学部助教授に配置替え
2000年4月 一橋大学大学院社会学研究科助教授に配置替え
2002年4月 The University of Queensland（クイーンズランド大学・オーストラリア）客員研究員
（2003年3月まで）
2004年4月 一橋大学大学院社会学研究科教授

3. 学内教育活動

（A）主な担当講義名

（a）学部学生向け

スポーツ社会学の基礎,スポーツ問題の社会学,スポーツ政策論,地域社会とスポーツ

（b）大学院

身体社会史,地域スポーツ論

（B）ゼミナール

学部ゼミナール,大学院演習

4. 主な研究テーマ

- スポーツ政策（とくに生涯スポーツに関する政策）
オーストラリアの社会とスポーツ
障害のある人々のスポーツ
地域社会における社会教育、生涯学習

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

- 「小学生はオリンピックに出られるの？」坂上康博編『12 の問いから始めるオリンピック・パラリンピック研究』（共著），かもがわ出版,2019, p.94-103.
- 「背中合わせのオリンピックと地域スポーツ」石坂友司／松林秀樹編『一九六四年東京オリンピックは何を生んだのか』（共著），青弓社,2018, p.120-147.
- 「ワールドカップ」渡辺雅男、渡辺治共編『「現代」という環境』（共著），旬報社,2007, p.43-60.
- 高津勝・尾崎正峰編『越境するスポーツ』（編著），創文企画,2006

(b) 論文

- 「地域の公共スポーツ施設の持続可能性の模索－参加と自治の経験に学ぶ」『都市問題』 第111巻第1号, p.49-58, 後藤・安田記念東京都市研究所,2020.1
- 「オリンピックとSPレコーダー戦前におけるスポーツ、オリンピックの「受容」に関する一視点」『一橋大学スポーツ研究2019』 通巻38号, p.3-18, 一橋大学スポーツ科学研究室,2019.12
- * 「「文化の手荷物」としてのスポーツが織りなすアマルガム－オーストラリアの移民と「エスニック・ゲーム」としてのサッカー」『移民研究年報』 通巻25号, p.45-62, 日本移民学会,2019.6
- 「障害のあるなしを越えたスポーツの享受のために」『月刊社会教育』 2019年3月号, p.52-58, 国土社,2019.3
- 「オリンピック、芸術競技、音楽」『一橋大学スポーツ研究2018』 通巻37号, p.3-20, 一橋大学スポーツ科学研究室,2018.12
- 「障害者スポーツ」の嚆矢－一九七〇年代の「大阪市長居障がい者スポーツセンター」の実践」『一橋スポーツ研究2017』 通巻36号, p.3-10, 一橋大学スポーツ科学研究室,2017.12
- 「スポーツ施設」社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック（第9版）』, p.445-463, エイデル研究所,2017.
- 「生活のなかのスポーツを豊かにするために」『月刊社会教育』 2017年5月号, p.3-11, 国土社,2017.5
- 「オーストラリアン・フットボール・リーグと人種差別 -AFL Rule 35 をめぐって-」『一橋大学スポーツ研究2016』 通巻35号, p.25-30, 一橋大学スポーツ科学研究室,2016.12
- 「オリンピックを、いま、東京で、開催する意味－スポーツ基盤整備を<隗より始めよ>」『世界』 通巻878号, p.76-85, 岩波書店,2016
- 「公共施設の「再編」と地域のスポーツ施設」『一橋スポーツ研究2015』 通巻34号, p.18-23, 一橋大学スポーツ科学研究室,2015.12
- 「学校支援、コミュニティ・スクール」『ガイドブック教育法』, p.294-295, 三省堂,2015
- 「スポーツの基盤を地域で創る」『住民と自治』 通巻630号, p.6-10, 自治体研究社,2015.10
- 「シドニー・オリンピック・パークの歴史と現状」『一橋スポーツ研究2014』 通巻33号, p.135-140, 一橋大学スポーツ科学研究室,2014.12
- 「Is Australia "Paradise of Sport"?－「オーストラリアにおけるスポーツの格差・不平等」試論」『一橋大学スポーツ研究』 通巻32号, p.3-12, 一橋大学スポーツ科学研究室,2013.10
- 「運動部活動における暴力を乗り越える－地域と学校の結びつきと指導者のあり方」『月刊社会教育』 2013年10月号, p.43-49, 国土社,2013.10
- 「地域スポーツ振興に関わる職員の時代経験－その役割の検証と継承のために－」『一橋大学スポーツ研究』 通巻31号, p.67-72, 一橋大学スポーツ科学研究室,2012.10
- 「生涯スポーツ」「スポーツ振興基本計画」「総合型地域スポーツクラブ」等、22項目『社会教育・生涯学習辞典』, 朝倉書店,2012.
- 「地域スポーツを支える条件の戦後史－指導者、とくに職員問題に注目して－」『スポーツ社会学研究』 第20巻第2号, p.37-50, 日本スポーツ社会学会,2012.9

- 「日常生活圏域からスポーツイベントを考える」『都市問題』 第103巻第7号, p.4-8, 後藤・安田記念東京都市研究所, 2012.7
- 「地域と学校を結びつける学校開放へ～学校開放の経緯と意義～」『みんなのスポーツ』 第34巻第5号, p.12-14, 日本体育社, 2012.5
- “A History of Post-war Sport Policy in Japan and the United Kingdom” (co-author) Hitotsubashi Journal of Social Studies 43(2), p.81-102, Hitotsubashi University, 2011.12
- “Canging Characteristics of Post-war Sport” Hitotsubashi Journal of Social Studies 43(2), p.59-60, Hitotsubashi University, 2011.12
- 「スポーツ基本法の成立が示すもの」現代スポーツ研究会編『現代スポーツ研究』 通巻12号, p.1-12, 2011.12
- 「戦後日本の地域スポーツ転換のグラデーション」 試論『一橋大学スポーツ研究 2011』 通巻30号, p.23-30, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2011.10
- 「スポーツの権利」理念の具現化へー「スポーツ基本法」の成立と今後の課題『月刊社会教育』 2011年10月号, p.61-68, 国土社, 2011.10
- 「日常」と「非日常」が共鳴するスポーツ環境を」渡辺治、進藤兵編『東京をどうするか』, p.217-220, 岩波書店, 2011.3
- 「スポーツ施設」社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック（第8版）』, p.383-400, エイデル研究所, 2011.
- 「スポーツ政策のグランドデザインをースポーツの社会的基盤形成の長期的展望への模索」『月刊 社会教育』 2010年10月号, p.5-15, 国土社, 2010.10
- 「オーストラリアにおける「ラグビー」の拡大と分裂」『一橋大学スポーツ研究』 通巻29号, p.3-10, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2010.10
- 「オリンピックと地域スポーツ振興の架橋」『世界』 通巻798号, p.170-176, 岩波書店, 2009.12
- 「楯岡ボールのイレギュラー・バウンダーオーストラリアにおけるラグビー・リーグの誕生と展開」『季刊 民族学』 通巻130号, p.34-39, 千里文化財団, 2009.10
- 「アボリジナルとスポーツ」『一橋大学スポーツ研究 2009』 通巻28号, p.19-26, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2009.10
- 「学校開放」『ガイドブック教育法』, p.266-267, 三省堂, 2009.4
- 「地域スポーツと学校開放」『一橋大学スポーツ研究 2008』 通巻27号, p.27-34, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2008.10
- 「ふたつの平等主義神話の交差ーオーストラリア・スポーツ・エスニシティ」『西洋史学』 通巻231号, p.74-75, 日本西洋史学会, 2008
- 「オリンピック招致と都市」『一橋大学スポーツ研究』 通巻26号, p.41-46, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2007.10
- 「オリンピック、スポーツイベントと都市」柴田徳衛編『東京問題』, p.61-82, クリエイツかもがわ, 2007.2
- 「日本のスポーツ政策の歴史的変遷」『現代スポーツ評論』 通巻15号, p.116-123, 創文企画, 2006.11
- 「オーストラリアにおけるサッカーの「プロ化」の動向と背景」『一橋大学スポーツ研究』 通巻25号, p.39-42, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2006.10
- 「地域スポーツ活動」日本公民館学会編『公民館・コミュニティ施設ハンドブック』, p.283-286, エイデル研究所, 2006.
- 「スポーツ文化」社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック（第7版）』, p.290-305, エイデル研究所, 2005.
- 「社会教育施設と地域ネットワーク」日本社会教育学会編『講座 現代社会教育の理論Ⅲー成人の学習と生涯学習の組織化』, p.210-229, 東洋館出版社, 2004.9

- 「新自由主義改革と地域スポーツの行方」渡辺治編『変貌する<企業社会>日本』,p.259-296, 旬報社, 2004.7
- 「オーストラリアのスポーツ政策研究の現状と課題」『一橋論叢』 第131巻第2号, p.1-19, 日本評論社, 2004.2
- 「スポーツ政策の形成過程に関する一研究: オリンピック東京大会選手村の選定過程を対象に」『一橋大学研究年報人文科学研究』 通巻39号, p.159-251, 2002
- 『「地方分権」と地域スポーツ政策』『総合研究プロジェクト・ディスカッションペーパーNo.5』, p.1-17, 一橋大学大学院社会学研究科, 2001.3
- 「部活動の新世紀」日本スポーツクラブ協会編『スポーツクラブ白書』, p.59-68, 厚有出版, 2001
- 「地域スポーツの新世紀へ」『月刊社会教育』 第44巻第11号, p.36-41, 2000
- * 「地域スポーツへの『多元的参加』と『地方分権』」『地方分権と自治体社会教育の展望（日本社会教育学会研究年報）』, p.145-158, 東洋館出版社, 2000
- 「表現活動と地域文化の創造」日本社会教育学会編『現代公民館の創造』, p.288-301, 東洋館出版社, 1999
- 「ノーマライゼーションとスポーツ権」『一橋論叢』 第121巻第2号, p.65-80, 1999
- 「この国のスポーツのかたち」『月刊社会教育』 第41巻第10号, p.6-13, 1997.10
- 「私的「スポーツ研究」の始め」『一橋論叢』 第115巻第4号, p.66-80, 1996.4
- “The History of the Sports Industry in Japan since 1945.” Mike Collins (ed.) Leisure in Industrial and Post-Industrial Societies., p.111-124, LSA (UK), 1996
- 「子どものスポーツ——地域での遊びとゆっくりと発達すること」『月刊社会教育』 1995年10月号, 1995
- 「市民登場—カタツチ母さん奮闘記」「私たちの求める社会体育行政」荒木豊、高津勝編著『明日にむかう体育』, p.214-230, 大修館書店, 1992.
- 「みんなのスポーツ」福祉文化学会『いまこそ「みんなのスポーツ」を』, p.23-45, 中央法規出版, 1992.
- 「スポーツの産業化と生涯スポーツ」『一橋論叢』 第105巻第3号, p.81-97, 日本評論社, 1991.
- 「教育・文化・スポーツ産業と婦人の学習」日本婦人団体連合会編『婦人白書1989』, p.27-33, ほるぷ出版, 1989.
- 「生涯学習」の時代における地域スポーツの発展『月刊社会教育』1988年10月号, 国土社, 1988.10
- * 「生涯スポーツの組織化—地域スポーツ変革主体の探求」日本社会教育学会編『生涯教育政策と社会教育』, p.160-161, 東洋館出版社, 1986.
- * 「都市化過程と社会体育—社会体育研究の課題」伊藤三次編『生活構造の変容と社会教育』, p.98-107, 東洋館出版社, 1984.

(d) その他

- 「スポーツの危機と“余裕”ある社会への問い」『月刊社会教育』, 旬報社, 2020.12
- 「オリンピックの歴史を観る—オリンピックから考える歴史、社会、平和」『新英語教育』, 高文研, 2020.5.
- 「対談 貶められるスポーツ、その再生の道は—ポスト・オリンピックの身体と社会」『世界』, 岩波書店, 2020.2
- 「スポーツを通してインクルーシブな社会を創る／インタビュー」『月刊社会教育』, 国土社, 2017.5
- 「リオパラリンピック放送から見たものと「まだ見ぬもの」」『GALAC No.235』, NPO 法人放送批評懇談会, 2016.12
- 「世界と地域をつなげてとらえる—「スポーツ・リテラシー」のすすめ—」『月刊社会教育』, 国土社, 2012.11
- 「住民と職員のタッグで新しいクラブ創り」『月刊社会教育』, 国土社, 2010.10
- 「市民のオーケストラが奏でるハーモニー」『月刊社会教育』, 国土社, 2009.2
- 「市民の文化・芸術活動と地域」『月刊社会教育』, 国土社, 2008.4.
- 「まずは、手にとってみませんか—社会教育・生涯学習の基本文献紹介」『月刊社会教育』, 国土社, 2005.4
- 「オーストラリア・スポーツ見聞録」『月刊社会教育』, 国土社, 2004.10
- 「総合型地域スポーツクラブの“源流”を訪ねて」『月刊社会教育』, 国土社, 2004.10

『寛容のレシピ』—マルチカルチュラルなオーストラリアで感じたこと『月刊社会教育』, 国土社, 2004.5
「FAQ (よくある質問) 総合型地域スポーツクラブ」『月刊社会教育』, 国土社, 2002.3
「保健体育審議会答申—『スポーツ振興基本計画の在り方について』」『月刊社会教育』, 国土社, 2000.11
「<仮想座談会>ちょっと拝見 公共スポーツ施設」『月刊社会教育』, 国土社, 1999.4
「パラリンピック・エキスパートコンgresに参加して」『スポーツのひろば』, 新日本スポーツ連盟, 1998.5
『今どきの子ども』は、ひ弱?—文部省『体力・運動能力調査』から考えること『月刊社会教育』, 国土社, 1997.2
「生涯スポーツ」『日本教育年鑑 1993』, ぎょうせい, 1993
「岐路に立つ大学の体育—だれのための高等教育か」『スポーツのひろば』, No.214, 1991
『豊かな』社会とスポーツ政策『月刊東京』通巻 89 号, 東京自治問題研究所, 1990
「学校教育と社会教育」『'90 調査いたばし—区民生活調査報告書』, 板橋・生活と自治研究所, 1990
「生涯スポーツとは」月刊社会教育編集部編『生涯学習の時代をひらく』, 国土社, 1989
「もっとわかりあえる明日へ」『月刊社会教育』, 国土社, 1988.9

B. 本研究科着任後の研究活動 (着任 1995 年)

(a) 国内外学会発表

- * 「文化の手荷物」としてのスポーツが織りなすアマルガム～オーストラリアの移民と『エスニック・ゲーム』としてのサッカー～, 日本移民学会第 28 回年次大会, 2018.6, 南山大学
- * “The Disparity and Inequality of Sport in Japan”, MAJIT Program in University of Queensland, 2013.8, University of Queensland, Australia
- * 「地域スポーツを支える条件の戦後史・粗描」, 第 21 回日本スポーツ社会学会大会・研究委員会企画シンポジウム, 2012.3, 熊本大学
- * 「シンポジウム オーストラリアにおける白人性の相克—アボリジナル・スポーツと移民制限」, オーストラリア学会・全国研究大会シンポジウム, 2008.6, 追手門学院大学
- 「オーストラリアにおけるスポーツ政策の生成と展開」, 日本社会教育学会第 50 回研究大会, 2003.9, 早稲田大学

(b) 国内研究プロジェクト

- 文部科学省科学研究費補助金, 「グローバル化社会の多様化する主体/コミュニティと「生活圏」としてのスポーツ研究」(研究分担者), 一橋大学, 2018.4-2021.3
- 文部科学省科学研究費補助金, 「グローバル化する社会におけるスポーツと多様性に関する研究」(研究代表者), 一橋大学, 2016.4-2019.3
- 文部科学省科学研究費補助金, 「グローバル化する社会におけるスポーツと格差・不平等に関する総合的研究」(研究代表者), 一橋大学, 2011.4-2014.3
- 文部科学省科学研究費補助金, 「スポーツのグローバル化とコミュニティにおけるスポーツの変容に関する研究」(研究代表者), 一橋大学, 2008.4-2011.3
- 文部科学省科学研究費補助金, 「スポーツのグローバリゼーションとローカリゼーション」(研究分担者), 文部科学省, 2002-2004
- 文部省科学研究費補助金, 「スポーツのグローバリゼーションと多元性」(研究分担者), 文部省, 1998-2000
- 松下国際財団研究助成, 「スポーツ・イベントと開発——ナショナリズムと都市建設に関する日韓比較」(研究分担者), 松下国際財団, 1998-1999
- 文部省科学研究費補助金, 「国際化とスポーツ政策」(研究分担者), 文部省, 1995-1997

6. 学内行政

(A) 役員・部局長・評議員等

評議員

(B) 学内委員会

教養教育委員, 学士課程教育専門委員, 一橋論叢編集委員, 一橋ジャーナル編集委, 人文・自然研究編集委員, 附属図書館委員, 共通教育図書選定 WG 委員, HQ 編集部員

(C) 課外活動顧問

一橋大学管弦楽団, ワンダーフォーゲル部, ソフトテニス部, 一橋硬式庭球部

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

埼玉大学教育学部 (社会教育概論、社会教育特論) 1992~95

大東文化大学文学部 (社会教育概論) 1996~2001

(b) 所属学会および学術活動

日本社会教育学会

日本スポーツ社会学会

日本体育学会

(c) 公開講座・市民講座

社会学部連続市民講座運営委員, 2006~09

社会学部連続市民講座・講演「ワールドカップーグローバル化するスポーツ環境」2006.6.17

社会学部連続市民講座・講演「寛容のさじ加減ーオーストラリアのスポーツに見る多文化主義の葛藤」2016.9.17

(e) その他 (公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

さいたま市立東浦和公民館「さわやか学級」人権講座・講演「オリンピック・パラリンピックの魅力 ~歴史を振り返り、“いま”の課題を知り、スポーツ、そして社会の発展を考える~」2020.11.5

蔵前工業会神奈川県支部 2019 年度第 1 回卓話会・講演「オリンピックが刻んだもの~1940、1964、2020、それぞれの時代、社会の中で~」2019.10.9

2019 年度東京都スポーツ推進委員研修会「広域地区別研修会 (第 8 ブロック)」・講演「歴史から学ぶスポーツ推進委員の役割~地域の実情から考えるスポーツ振興~」2019.7.27

東大和市生涯学習推進計画審議会・講演「『社会教育』、『生涯教育』、『生涯学習』の用語をめぐって~用語の定義の多様性と歴史的経緯・背景~」2016.1.25

東大和市社会教育委員会議・講演「スポーツ振興と地域づくり」2014.10.18

一橋大学開放講座・講演「1964 年から 2020 年へ~ふたつの東京オリンピックを考える~」2014.9.18

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会, 「全国聾学校合奏コンクール」 審査委員長, 2017.4~現在
東大和市教育委員会, 東大和市生涯学習推進計画審議会委員, 2015.11-2017.1
さいたま市教育委員会, スポーツ振興審議会, 2003.7-2011.6
さいたま市教育委員会, 社会教育委員, 2001.10-2001.6
さいたま市教育委員会, さいたま市生涯学習推進計画策定市民会議委員, 2004.10-2005.3

9. 一般的言論活動

「論点 東京五輪 問題山積」『毎日新聞』, 毎日新聞社, 2021.2.26 朝刊
「#五輪をどうするーコロナ禍でのオリンピック開催は現実的でない」『毎日新聞デジタル』, 毎日新聞社, 2021.2.5
「アンバランスな日本、五輪を開いても…」『朝日新聞デジタル』, 朝日新聞社, 2021.2.2
「(再考2020+1) 早く中止を決めた方がいい。その後を考えるのが大切」『朝日新聞』, 朝日新聞社, 2021.2.2 朝刊
「ラグビーW杯: なぜ? オーストラリア国内では人気低迷の「ワラビーズ」」『毎日新聞』, 毎日新聞社, 2019.10.18 朝刊
「オーストラリア<上> 「15人制」人気伸び悩み」『読売新聞』, 読売新聞社, 2019.8.12 朝刊
TBS ラジオD i g 「2020年、東京でオリンピックを開催する意義とは?」 2013.1.14
「五輪へ 多様な指標を」『毎日新聞』, 毎日新聞社, 2012.12.15 夕刊
「感動」「興奮」のスポーツ報道」『北海道新聞』, 北海道新聞社, 2007.9.25 夕刊